



世界遺産と

八幡の都市・建築・歴史

その魅力を  
どう活かすか



2016年4月17日 午後1:30

会場 レディースやはた  
参加費 500円

■パネリスト

五十嵐敬喜 (前内閣官房参与・法政大学名誉教授・弁護士)

市原 猛志 (九州大学助教・九州国際大学非常勤講師)

東郷 和彦 (元在オランダ大使・京都産業大学教授)

■司会

末廣 香織 (建築家・九州大学大学院人間環境学研究院准教授)

官営八幡製鐵所関連施設が世界文化遺産に登録され、おおぜいの人々が北九州市八幡を訪れています。明治から昭和にかけて、日本の発展のいしづえとなった八幡製鐵所。八幡の街には、その繁栄を物語る軌跡が今もいろいろなところに残り、私たちにその歴史を伝えてくれています。

特に戦後の早い時期にできた八幡市民会館や八幡図書館は、戦争で荒廃した街や人々のところに「明るい未来」の到来を告げるものでした。

世界文化遺産とそれを生んだ八幡の都市、人々の暮らし、その時代を伝える建築の魅力や役割とは何か。それらを活用し次の世代に引き継ぐにはどうしたらいいのか、知恵を出し合いませんか。

申し込み : <http://machi-kaeru.com>

問い合わせ : 510@machi-kaeru.com 上村千寿子 090-3904-7371 ・ 加来浩佑 090-6297-9009



携帯からの申込↓

